



小泉俊博

小諸市長

15年前に新潟県名立町のご出身で小諸市和田在住の名

私の趣味は、知る人ぞ知る(ほとんど知られていませんが・・・)水墨画です。

6項目の重点方針

東京小諸会の今年度の重点方針(以下の6項目)を会員の皆様と共有して実践

コロナ禍の中、新たな年を迎え、会員ご家族様の健康とご多幸をお祈りいたします。今年度も東京小諸会の活動にご理解、ご支援をお願いいたします。



共に築く東京小諸会

特に現会員の子世代、孫世代の方々に東京小諸会会員の参加を積極的に推進し、会員の継続的な発展を図る。

- ① ホームページやメール、四季報等の媒体を通じ、東京小諸会及び小諸市関係
- ② 立帰山先生(墨心透映流宗家)に勧められ入門したのがきっかけでした。
- ③ 墨の濃淡だけで描く世界は大変奥が深く、すぐに虜になりました。先生曰く「上手く描こうとすれば邪念が入る。心のままに描く



残念ながら名立先生は視力の低下から数年前に引退されましたが、先生の作品は、市長応接室、小諸市文化会館などの公共施設や八



※写真
小泉桃里(市長)の作品「施籠(せり)」2号 平成27

満の正眼院などに展示されており。是非お時間のある時に名立先生の迫力ある作品を鑑賞されることをお勧めします。



東京小諸会 会長 松井石根

会総会への参加者の増加を図る。
⑥ 東京小諸会創立60年(令和4年11月)記念事業の検討を開始する。

継続的なふれあいを求めて

じじも小諸ふるさと市民

じじも小諸ふるさと市民として登録できるか。東京小諸会が独自に打ち出したふるさと小諸を「第二のふるさと」として小諸このふれあいを継続的に持続していく制度です。



会員以外の高校生以下の児童・生徒がじじも小諸ふるさと市民として登録でき

YACK
Young Ambassador For City of Komoro

じじも小諸ふるさと市民の中から「じじも小諸ふるさと大使(YACK)」を市長から任命していただくようお願いしています。

「じじも小諸ふるさと大使」は、小諸市や東京小諸会の主権の権限としてふるさと市民の代表として参加していただく、じじも大使としての役割を果たしていただきます。

東京小諸会
ふるさと納税

魅力のある
特産物の返礼

写真は返礼品の一つで好評の「浅間嶽」です。

問い合わせは
東京小諸会事務局

関係団体・東京小諸会等の主権の各種の行事にも参加ができます。子供の視点から見た小諸を詩や作文、俳句・写真や絵画等いろいろな方法で表現していただ

編集後記

永祿四年九月十日、川中島決戦の朝はまた深い霧に閉ざされていた。川中島最大の合戦の幕開けである。謙信は夜陰に乘じて妻女山を下り千曲川雨宮の渡しを対岸に渡った。私懸立ち込める濃霧を裂いて突如眼前に上杉軍が出現、武田勢は大混乱に陥った。後に江戸時代の儒学者頼山陽が合戦模様を「觀古肅夜過河 曉見十兵擁大牙 遺恨十年磨一劍 流星光底逸長蛇」と詠んだ。10歳の時大河ドラマ「天と地と」を観てこのシーンと漢詩に胸躍った。信濃国川中島に魅了され若王学問に興味を持つ天宮子。そして今東京小諸会の事務を担う。オンワード樺山創立者、樺山純三氏は小諸会二代会長。姪の樺山文枝さんが謙信との結ばれぬ愛を貫いた乃美を演じた。人は縁に導かれているのだと合戦で討死した山本勘助が縄張りした小諸城址懐古園の石垣に立ち、ふと思っ

(九州出身 原口慎)

心の安らぎよるよと小諸

私にとって小諸での生活は、高校卒業までの私の人生の中でみるとほんの一部の期間ではあるが、その時々思い出は今でも強く、鮮明に心に残っている。現在の日々の生活の中で、小諸は心の安らぎの場所であり、年を重ねることにその気持ちはより強くなっている。しかしながら、実際に小諸に行く機会がむしろ

私の思い出

音楽と青春

高校卒業まで小諸におりましたが、その後、上京し音大に入りました。しばらくは新しい環境に慣れるのに一生懸命でした。指導はきびしく、われながら練習はどても良くしたと思えます。

各地から集まったクラスメートとの交流はいろいろ

少なくなっているのは体力的なものも含めてやむを得ない残念でもある。

最近では毎晩、就寝時の布団の中で、小諸街並み研究会発行の「高原の城下町小諸」を読んでいることのでき、気持ち良い睡眠をとれる。この冊子を見ると、今まで知らなかった小諸の歴史、他が非常によくわか

な話が聞けて興味深く、世界が広がった気がしました。又あいた時間に小諸出身の八才上のいことを訪ねるのが楽しみでした。食事をこ



る。狭い町とはいえ、その歴史を知るにはやはりそれなりの時間が必要ということに改めて知った。私にとって、最も強い思い出といえ

ば、中学、高校、大学時代

供と遊んだりして元気をもらい新鮮な気持ちでピアノの練習に向かうことが出来ました。

食事作りを始めたのもこのころで、大家さんに借りたお釜をカスコンロに乗せ、お米を炊きました。火かけんがうまくいった時おいしいごはんが出来て嬉しかったです。当時をふりかえってみて苦勞もしたでしょうけど覚えているのは楽しいことばかりです。まさに、



亡き八才上のいと私(右)

食事を始めたのもこのころで、大家さんに借りたお釜をカスコンロに乗せ、お米を炊きました。火かけんがうまくいった時おいしいごはんが出来て嬉しかったです。当時をふりかえってみて苦勞もしたでしょうけど覚えているのは楽しいことばかりです。まさに、

を通して千曲川での魚のかみ取り、夜中に懐古園で大気な声での吟詠、春、秋の季節に応じた山菜取り、街から少し上った見晴らしの良い場所から眺めた浅間山、八ヶ岳、北アルプスなどの山々の景色の鑑賞等思い出は尽きない。

これらの情景を思い出しながら今後も楽しい人生を送りたいものである。機会があったら個々の思い出を詳述したい。

田沢雄二郎 (荒町出身)

思い出

小諸の小中学校

▽東小学校・坂の上小学校・野岸小学校・水明小学校・千曲小学校・美南力丘小学校
▽音原中学校(旧西田学校)・東中学校

木俣美紀子 (市町出身)

なつかしい青春時代の思い出です。

ふるさとを思う

ふるさととは遠きにあつて思ふもの。この遠きには二つの思いがある。年を重ねた今日この頃思うのである。

ふるさと小諸から距離的に離れて生活してきた。歳月が経て子供の頃の思い出が遠くなったこと、思い出である。

特に子供のころの日常茶飯事の生活経験が年とともに鮮やかに蘇ってくる。

豊かな小諸の自然と歴史と文化と人とのふれあいが素朴な句となって浮かんできた。

浅間山 千曲の流れ 母の里
小枝から 丸ごたがるりんこの実
ガマの穂で 小遣いかせ
花市の音
懐古園 父母の思い出
散る紅葉

ふるさと偉人

音楽教育を切り拓いた
神津専三郎(仙三郎)

神津専三郎(1852~1927)写真IIは、伊沢修二とともに日本の近代音楽教



育を拓いた人として知られていますが、同時にターウィンの進化論を翻訳した人物として、また日本にエジソンの蓄音機を日本に初めて紹介した人物として、また鳩山家にかかわる人物として語られることもあります。芝生田村に生まれた神津

珍しい小諸城の地形

旅をする時、各地に残る城跡や天守閣に上り、いにしえを偲ぶのは楽しいものです。

日本の城には地形により、平城、平山城、山城という呼び方があります。小諸城は分類上、平山城に属しますが、まれに見る珍しい地形に造られています。そのユニークさは、城郭が城下町よりも低い場所に位置す

るので、高所を通る街道から城が見えず、日本で唯一、六城(あなじろ)という別称があることです。現地を訪れて、小諸駅より北に延びるならかな坂の商店街を散策し、帰路に小諸駅方面を眺めると確かに城の存在を全く感じられません。

また、城内に残る深い空堀や城の西端の守りである千曲川を眼下に眺めながら

戦国時代の戦いに思いを巡らすのも歴史ファンには堪えられない一時です。

明治初めの廃藩置県後に多くの城は廃城になりましたが、小諸では荒廃する城を憂いた旧藩主らが資金を集めて政府から城を買い戻しました。

廃城にならず令和に残る小諸城址(懐古園)は小諸市民にとってまさに宝物といえるでしょう。

内藤徹雄 II 元共栄大学 副学長

草笛の僧

僧が小諸に現れたのは私が小学校四年の時であった。諸地区の教員下宿に住み連日懐古園に通う。藤村詩碑付近にただ居るだけで、経を唱えるのも座禪を組むのも見たことはない。一体何のために懐古園に来て何をしていたのであろうか。

そんな僧と何となく接するようになった。お互い名前も知らない。目があつと時だけニーツと曖昧に微笑み合っただけであった。そして決まって「いま学校の帰ろ？」と聞いて来る。高校へ進み授業をサポート不良連と戯れていた時もそうだった。平白の真つ唇間に学校の帰りの訳がないのに。

僧は草笛を吹いていた。モノ悲しい音だったように記憶している。

直も眠る谷中墓地にありませう。小諸市教育委員会 教育長 小林秀夫

真似て草の葉を唇に当てて吹いてみたが辛うじて音が出るだけで曲には至らなかつた。大学に進んで夏休みの帰省の折も必ず懐古園の僧を訪ねた。その時も「いま学校の帰ろ？」と。ちょっと違つがまあいいか。『学校の帰ろ？』はその後も続き、結婚して子供を連れて帰った時も僧は『学校の帰ろ？』と聞いて来た。

数年の空白を経て久々に懐古園を訪ねたとき僧の姿はなかつた。傍らの草の葉を唇に当てて吹いてみたが僧と遊んだ頃に出た音も今は出ない。時は確実に経っていた。

僧の名を横山祖普郎(知つたのはそれから更に時を経たこと)である。

白鳥伍朗(滝原出身)